

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月3日他実施)	総合評価（3月27日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教 育 課 程 学 習 指 導	○基礎的・基本的な知識・技能の獲得を基本に、その活用による対話的・協働的な学習活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を備えた生徒を育成する	①小集団学習・習熟度別学習とICT利活用授業の実施により、対話的・協働的な授業を展開し、積極的に学習に取り組む態度を育成する。 ②シチズンシップ教育を含むテーマを設定した組織的授業改善と、公開研究授業・研究協議を実施する。	①学習形態に応じた対話的・協働的な学習を通して「わかる・できるが実感できる授業」を実践し、生徒の主体的な取組を定着させる。 ①授業互見、研究授業等を通じて、研究授業後の振り返りを定着させる。 ①対話的・協働的な学びのためのICTの活用法を教員や生徒へ具体策を提示しながら支援する。 ①指導と評価の一体化の視点を踏まえたシチズンシップ教育の実践と対話的・協働的な学びの充実により、組織的な授業改善に取り組む。	①授業実践において目標設定と振り返りができたか。 ①授業互見、研究授業を年2回以上実施し、研究授業後の教科会を設定できたか。 ①ICT活用充実のための研修会実施と円滑な活用を支援できたか。 ②シチズンシップ教育の授業評価の該当項目において肯定的回答の割合を90%以上達成する。	①各教科でテーマに沿った取組と振り返りができた。 ①授業見学期間を2回設定した。公開研究授業では教科会・全体会の実施と指導主事のご指導により、組織的な授業改善に取り組んだ。 ①共通の目標のもと授業が構成できるよう、『シチズンシップ教育を通して生徒に身に付けさせたい力』を明確化させた。 ②生徒が、授業を通してどのような力を身に付けたかを実感できるよう、シチズンシップ教育に関するアンケートを作成し、事前・事後で比較した。また、そのシートをシチズンシップ教育の効果測定シートとして活用して、結果を分析し、課題を見える化することで授業改善に生かした。	①シチズンシップ教育について、令和4～6年度の指定校事業研究の成果と課題を踏まえ、全教職員が共通の目標の下で組織的に研究を進められるよう、令和7～9年度の指定校事業研究の質・量を充実させる。 ①研究授業及び相互に授業見学することにより、授業や生徒の課題を教職員同士で広く把握し、教職員全体でなお一層の授業の質の向上を目指す。 ①授業互見とその後の協議を通して、教科間の内容のつながりを他教科と共有し、教科横断的な授業改善につなげていく。	○シチズンシップ教育について、全教員の共通理解を深めたい、という説明がありました。が、これはとても大切なことなので、どの教育活動においても教員間でしっかりとした共通基盤を作ってもらいたい。 ○iPadを購入させる以上は各教科の授業にしっかり活用していただきたい。 ○電子黒板が配備されたのでICTを活用した取組を充実させていただきたい。	①『シチズンシップ教育を通して生徒に身に付けさせたい力』を明確化させた。 ①授業や生徒の課題を教職員同士で広く把握し、研究授業及び相互の授業見学を通して、教職員全体でなお一層の授業の質を向上させることが課題である。 ②シチズンシップ教育に関する独自のアンケートを作成し、事前・事後で比較することができた。 ②独自のアンケートをシチズンシップ教育の効果測定シートとして活用し結果の分析と、課題を見える化できた。	・シチズンシップ教育を推進するために、組織的な授業改善、公開授業・研究協議を実施する。 ・シチズンシップ教育について、令和4～6年度の指定校事業研究の成果と課題を踏まえ、全教職員が共通の目標の下で組織的に研究を進められるよう、令和7～9年度の指定校事業研究の質・量を充実させる。 ・授業互見と協議を通して、教科間のつながりを他教科と共有し教科横断的な授業改善につなげる。 ・ICTを活用した授業に取り組み、協働的な学習活動を充実させるとともに、振り返りや授業評価に取り組む。
2	(幼・ 児 児 童・) 生 徒 指 導 ・ 支 援	①社会規範意識を備え、社会から期待され信頼され応援される生徒を育成する ②部活動や学校行事、地域連携活動を通して、自己肯定感を高められる主体的な活動の場を整備し支援する	①マナー・ルールの必要性理解を踏まえた、社会に貢献できる生徒を育成する。 ①サポートドックの活用と「チーム田名」を意識した支援教育により、周囲と適切なコミュニケーションをとれる寛容な心を育成し、社会性を育成する。 ②学校行事や部活動等での主体的な活動を積極的に評価し、継承してゆく方法を検討する。 ②部活動加入者や地域連携活動参加者の増加と、活動報告会の充実を図る。	①高校生（社会人）としての適切な言葉遣いや挨拶、制服の着こなしを徹底し、地域から応援されるような社会性・社交性を身に付けさせる。 ①サポートドックの活用や生徒への積極的な声掛け・面談を通して、安心・安全な学校をつくる。 ①相談しやすい環境をつくり、SC・SSW等との連携を充実する。 ②生徒の主体的な創意工夫を促し、学校行事を自尊感情や生徒相互の一体感を育む。 ②コロナ禍の中学校生活であった新入生に部活	①TPOに合った言葉遣いや態度、制服の正しい着こなしの徹底と、授業に集中させることができたか。 ①日常の声掛け・面談を通して、生徒の小さな変化に気付くことができたか。 ①SC・SSWと連携し生徒の問題に対して早期対応ができたか。 ②生徒会行事を見直し、行事に積極的に取り組んだか。 ②委員会活動において、主体的に取り組んだか。	①TPOに合った言葉遣いや立ち居振る舞いに関しては、まだ課題のある生徒や授業に集中できていない生徒もいる。 ①日常の声掛け・面談から生徒の小さな変化に気付くことは生徒の様子や担任との情報共有を通じて大方対応できている。 ①サポートドックを導入しSC・SSWと連携し生徒の問題に早期対応ができた。 ②体育祭、文化祭等の生徒会行事において、委員会、生徒会が教員と協力し全校生徒を動かし主体的積極的に取り組んだ。 ②各委員会活動が責任をもって学校行事に貢献できるようになってきた。福祉委員会のボッチャ審判、中央委員会の整列指導、風紀委員会の文化祭での下校時服装指導など	①日常生活の中できめ細かく言葉遣いや態度を各教員と連携しながら伝えていく。また、巡回を強化しながら集中できていない生徒にも対応する。 ①日常の声掛けを全教員で行い、生徒の小さな変化に対応していく。 ①プッシュ型面談を通じて、今後もスムーズにSC・SSWに繋げていき、さらには教員間の共有も迅速に行っていきたい。 ②学校行事は、生徒がより主体的・積極的に運営し、生徒が自ら反省・改善ができるように支援・指導することで、さらに活気のあるものに変化させていく。 ②全体の部活動加入率の目標を達成できなかったのので、中学生との交流等の工夫をしてさらにアピー	○こころコメントの桜まつりパレード参加や自転車のヘルメット普及活動は今後も継続していただきたい。 ○ヘルメット着用推進に向けて保護者に直接呼びかけて購入促進されていることはすばらしい。 ○水道道だけがをしていたところ救護支援をしていただき、感謝している。 ○自転車通学時の交通マナーの徹底に力を入れていただきたい。	①TPOに合った言葉遣いや立ち居振る舞いについて、まだ課題のある生徒がいる。 ①サポートドックの導入もあり、SC・SSWと連携し生徒の問題に対して早期対応ができた。 ②体育祭、文化祭等の生徒会行事において、委員会、生徒会生徒が教員と協力し、全校生徒を動かし、主体的積極的な企画運営の充実に取り組ませる。	・きめ細かく声掛けを全教員で行い、生徒の小さな変化に丁寧に対応する。 ・サポートドックを更に活用し、プッシュ型面談を通じて、今後もスムーズにSC・SSWに繋げていき、教員間の情報共有・行動連携をさらに充実させる。 ・サポートドックを活用した支援教育により、適切なコミュニケーション力を育成し社会性を身に付けさせる。 ・生徒の主体的な取組を積極的に評価して、学校行事・部活動を活性化させその良さの継承をサポートする。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月3日他実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				動が有意義な時間であることを理解させ、部活動加入率60%以上の維持と運動部女子加入率30%を目標とする。 バランスの良い教科・教科外活動により、生徒の様々な取組を活性化する。 ②部活動・委員会・有志により地域の活動で協働する。	②部活動加入率60%を達成できたか。 部活動の生徒が学校行事等へ主体的に協力できたか。 ②地域活動に参加した延べ人数が増加したか。	主体的に学校行事へ協力 ②シチズンシップ教育の一環として生徒会役員選挙ではマニフェスト、選挙ポスターの制作・掲示。 ②部活動加入率は57%と目標には及ばなかった。 ②体育祭では部活動の生徒が責任をもって準備と各係を務めた。また3年生各団の団長も各色をよくまとめ盛り上げていた。 ②地域活動では地域の依頼を積極的に受けて貢献。 ②校内の地域活動を含め延べ約600名が参加した。	ルする方法を模索する。 ②地域貢献については年度当初にある程度把握し、派遣者を決められるものは計画的に決めておく。 ②人数だけではなく、参加できる地域活動を増やし、活動の幅を広げられるようにする。	○参加できる地域活動を増やし、活動の幅を広げられるようにできるとよい。	②生徒表彰制度を導入することができたが、情報発信については、広報のやり方を検討する。 ②地域連携活動について、生徒に見通しを持たせ、主体的な取組に繋げることが必要である。	・生徒表彰・生徒活動につながる案件の広報を、ITC等を活用して充実させる。 ・地域貢献活動の取組予定連携先と連携を密にして、できるだけ早い時期に実施要領を、生徒に周知する。
3	進路指導・支援	○社会的・職業的自立を目指し、長期的展望の獲得やキャリア諸能力の形成による人材の育成に取り組む	①「総合的な探究の時間」の指導法を研究し、求められる資質・能力の育成に向けた探究活動を推進する。 ②自己分析や計画性を踏まえた進路活動により主体的に進路決定ができるよう指導・支援する。	①「総合的な探究の時間」の内容や指導方法について試行し、ノウハウを確立させる。 ②職業理解講座や分野別説明会などによる職業観の深化を促す。 ②総合的な探究の時間等を通して、生徒が3年間を見通した計画を獲得できるよう支援する。	①「総合的な探究の時間」の内容や指導方法を確立できたか。 ②職業理解講座や分野別説明会などにより職業観を深化させることができたか。 ②生徒が見通しを持って進路活動に取り組むことができたか。	①「総合的な探究の時間」の内容や指導方法を新たに構築した。 ②職業理解講座や分野別説明会等により職業観を深化させることができた。 ②多くの生徒が見通しを持って進路活動に取り組むことができた。	①より良い指導方法を確認するために、副教材等を効果的に活用する。 ②職業観を深化させるために、進路について考える機会を増やす。 ②進路希望調査の内容や方法について検討する。	○進学や就職等に際して異なる指導で指導が複雑で多忙になる。アンテナを高くし多くの情報を集め、確実に進路実現をサポートしてほしい。 ○「小中一貫の日」の取組を高等学校へも広げることはいできないか。	①「総合的な探究の時間」について、求められる資質・能力の育成を充実させることができた。 ②計画性と主体性を持った進路決定体制の充実を図る必要がある。	・探究の成果が適切な発表に繋がるように、様々な表現手法を身に付けさせる。 ・自己分析や計画性を身に付けさせ、主体的な進路決定に取り組ませる。
4	地域との協働	○豊かな人間性、社会性を育み、生徒が有用感、自尊感情を実感でき、地域に信頼される学校づくりに取り組む。	①地域連携活動参加への積極的働きかけや主催する地域関連事業の充実に取り組む、その成果を発信する。 ②コミュニティスクール(学校運営協議会)の充実を図る。	①生徒の「地域貢献活動」等やPTA主催の「キウイ収穫祭」の参加を促進する。 ①地域の社会福祉施設や公民館、近隣小中学校との交流事業を行う。 ①学校ホームページを充実させる。 ②(学校運営協議会)の開催において、各グループの活動紹介を促進する。	①「地域貢献活動」等への参加者が増加したか。 ①社会福祉施設や公民館、近隣小中学校との交流事業を実施したか。 ①ホームページに学校生活の様子等を月2回以上更新できたか。 ②コミュニティスクール(学校運営協議会)からの評価が向上したか	①地域貢献活動は地域やPTAと連携して実施した。キウイ収穫祭当日、大会があり生徒が参加できなかったが、昨年度並みの参加人数で実施できた。 ①部活動や同好会、委員会の生徒だけでなく、個人として地域の社会福祉施設や公民館における交流活動の参加ができた。 ①ラウンジ展(11/7～11/9)を開催した。 ①学校ホームページを随時更新・改良を行った。	①地域貢献活動等、より充実した形態で実施できるよう検討する。 ①地域の交流活動が特定の部活動等だけでなく、関心のある個人も参加できるよう活動の周知を工夫する。 ①ラウンジ展では多くの参加を頂くことが出来た。見学もして頂けた。 ①ホームページを月2回更新することは出来なかったが、随時更新・改良を行うことでできた。	○部活動の生徒に依存しない。 ○イベントを全校生徒対象に参加希望者が集める。 ○「小学生と遊ぶう」の団体参加は相模原市教育委員会として感謝。 ○田名社協から、3団体3個人に感謝状が授与。 ○公民館活動への参加は大変感謝している。	①地域との連携の仕方見直して、生徒一人ひとりの教育力を向上させる。 ②学校運営協議会を活性化して、学校運営を充実させる。	・地域貢献について、計画と見通しを持って取り組みせ、参加希望者を増加させる。 ・地域貢献活動に積極的に取り組みせ、その広報活動について、様々な手法を用いて充実をさせる。 ・学校運営協議会の運営を活性化する。 ・新採用ミーティングの取組を充実させる
5	学校管理・学校運営	①安全、安心な学校生活の中で、自己と他者を守る行動のできる力を育成する。 ②事故・不祥事ゼロ実現に向け、教職員が一丸となって、風通しの良い職場環境を醸成する。 ③働きかた改革を推進するため教員の意識改革を図る。	①大規模災害や交通事故の際に、自他の生命を尊重して行動できるための指導を実施する。 ②職員が自分事として意識できる事故防止研修や不祥事防止会議を実施する。 ③Teams等の活用を促進し、業務の効率化・組織化を図る。	①大規模災害に備え、生徒・職員対象のDIG研修、防災避難訓練や帰宅班の確認、シェイクアウトを実施し、災害対応力を向上する。 ②事故・不祥事防止に向けた行動目標を達成する。 ③ICTを効果的に活用し、教職員の働き方・メンタル・健康管理をお互いに意識した安全・安心な職場環境をつくる。	①生徒・職員対象のDIG研修、シェイクアウト、防災避難訓練や帰宅班の確認を年1回以上実施できたか。 ②入学者選抜業務、定期試験において、事故ゼロを達成できたか。 ③業務のオンライン化やICTの活用により業務の効率化を推進できたか。	①学校周辺に限定せず、生徒が訪れる機会の多い地域も含めてのDIG研修を実施し、生徒の防災意識を高めた。 ①防災帰宅班の確認、防災避難訓練を実施した。防災避難訓練は通常の学習活動を想定し、シェイクアウトも同時に実施した。	①生徒対象のDIG研修の内容を検討し、生徒の理解を深められるよう改善する。 ①生徒の防災の意識を高めるために、防災避難訓練において事前指導等を充実させるなど工夫をする。	○地域の防災イベントに積極的に参加して、地域の防災を支えるという意識を高めていただきたい。 ○ICTを活用して、業務の効率化を進めてほしい。	①生徒対象のDIG研修を実施できた。さらに研修内容を検討し、生徒の理解を深められるよう改善する。 ②職員が自分事として事故防止に取り組む姿勢を育成する必要がある。 ③ICTを活用して、業務の効率化・組織化に取り組む。	・生徒一人ひとりが自他の生命を尊重できるように、学習活動全体を通じて、防災意識を高める。 ・入学者選抜について、事故防止に向けて学校全体での意識の統一と情報共有をさらに進める。 ・ICTを活用して、職員一人ひとりの働き方を効率化させる。

